

聖書日課 『からし種』 2022.9.25-10.2

<p>9月25日 (日) 出エジプト 13章</p>	<p>「主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた」(21節)。荒れ野の旅はその最初から「雲の柱」に導かれ「火の柱」に照らされて始まった。「わたしは主にあつて彼らに力を与える。彼らは御名において歩き続ける」(ゼカリヤ 10:12)。今日歩く力を礼拝からいただいでいこう。</p>
<p>26日 (月) 出エジプト 14章</p>	<p>「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい」(13節)。目の前に紅海が広がり、後ろからファラオの戦車部隊が迫ってくる絶体絶命のピンチにも関わらず、モーセの言葉はなんと落ち着いていることだろう。目の前に見える光景に心惑わされることなく、神の前に静かに座り、霊的な落ち着きをいただくことができるように。</p>
<p>27日 (火) 出エジプト 15章</p>	<p>「モーセとイスラエルの民は主を賛美してこの歌をうたった」(1節)、「主はわたしの力、わたしの歌／主はわたしの救いとなってくださった」(2節)。圧倒的な力をもってエジプト軍と闘ったのは神ご自身だった。イスラエルの民に求められたのは「落ち着いて、主の救いを見ること」であり、主を信じきる信仰であった。今日、主を信じて委ねることができますように。</p>
<p>28日 (水) 出エジプト 16章</p>	<p>「見よ、わたしはあなたたちのために、天からパンを降らせる」(4節)。主の業を目の当たりにして大いなる賛美をささげた直後にイスラエルの民の口からは不平不満が噴き出した。なんと情けない信仰だろう。しかし、この彼らの姿こそ、わたしの姿ではないか。そのわたしを救うために天からの命のパンとして来てくださった主イエスを賛美することができるように。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.9.25-10.2

<p>29日 (木) 出エジプト 17章</p>	<p>「見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる」(6節)。荒れ野の旅は厳しく、飢えと渇きとの闘いはどれほど過酷なものであったことか。ミャンマー、ウクライナ、アフリカで、荒れ野の旅を強いられている人々を想う。主なる神が岩の奇跡をもって、旅する一人ひとりを守ってくださるように。</p>
<p>30日 (金) 出エジプト 18章</p>	<p>「小さな事件は彼ら自身で裁かせ、あなたの負担を軽くし、あなたと共に彼らに分担させなさい」(22節)。モーセのしゅうとであり、ミディアン人の祭司であるエトロの言葉がモーセを助ける。かつて荒れ野を放浪していたモーセを受け入れ、荒れ野の暮らしの手ほどきをしたのもエトロだった。イスラエルの旅は「異教徒」に助けられ、支えられての道行きだったことを想う。</p>
<p>10月1日 (土) 出エジプト 19章</p>	<p>「今、もしわたしの声に聞き従い／わたしの契約を守るならば／あなたたちはすべての民の間にあつて／わたしの宝となる」(5節)。エジプトでは主をまったく知らなかったイスラエルが、荒れ野の旅を通して主と出会い、主の救いの御業を体験していく。荒れ野は私たちの信仰を鍛える場所なのだろう。私たちもまた「聞き従う幸い」を知る旅に招かれている。</p>
<p>2日 (日) 出エジプト 20章</p>	<p>「銀の神々も銀の神々も造ってはならない」(23節)。モーセの十戒の場面。最初に神が人に最も重要な戒めを伝えたのだと思われる。主なる神だけを礼拝し、人が造ったものを礼拝してはならない。しかし、それが出来ない私たちがいる。十字架の主が私たちに神との和解を示された。ここに愛がある。</p>